

## 立田先生のご退職にあたって

柴田 峻介

私は、大学2年生から大学院修了までの約5年間立田先生の下で勉学に励んだ。学問とは何か、教育とは何かをたくさん教えていただいた。高校までろくに勉学に励まず、口だけは一丁前だった私を変えてくれたのは、立田先生との出会いのおかげであると言っても過言ではない。

立田先生との出会いは、教職を志す学生間の中で、「あの先生が一番ええで。」と噂になっていたところからだと記憶している。実際に話をすると、どんな学生であっても正面から向き合ってくれる人柄の良さが多くの学生に慕われる理由であることはすぐにわかった。

しかし、人柄の良さだけでは私を含む多くの学生がついてくるわけではない。なぜ、立田先生の周りにはこんなにも多くの学生が集まったのか。それは立田先生ご自身が誰よりも、日々新しいことを学び続けているからである。学生時代を含め、「生涯学習」という言葉を多く聞くことがあったが、このことを体現されているのが立田先生であった。どんなことでも学び、取り入れ、知識をアップデートされていくその姿が、私の勉強に対する姿勢にも大きな影響を与えた。

私が立田先生から伝えていただいた数多くの言葉の中でも、特に好きなのが「自律」である。自分を律するということだが、この言葉が全てを表していると感じる。もし、何かを成し遂げたいと思ったとき、世の中にはそれを邪魔するたくさんの誘惑がある。その誘惑に打ち勝ち、自分のやるべきことを実行するために必要な力こそが「自律」であると理解している。このことを学生時代に気づかせていただいたことは、私の人生を大きく変えた。

この「自律」という言葉を胸に、現在、私学の高校英語教員として働いている。国籍も異なる個性豊かな生徒たちがいる国際コースの担任、夢を追いかける生徒たちがいるサッカー部でのセカンドチームの監督として、まるであの頃の自分に似た子どもたちと日々関わっている。

教育現場に立って強く感じるのは、厳しく指導するということが難しくなっているということである。つまり、子どもたちに強制的に何かをやらせることが難しいということである。この現状から、自分を律することができる子どもと、そうでない子どもで学力だけでなく全ての面において大きな差が生まれてきている。そんな現代の教育現場だからこそ、自律した生徒を育てることが重要である。私が立田先生に教えていただいたことと同じように、自分の生徒たちにも伝えたいと日々取り組んでいる。

立田先生は、ご退職後も日々、いろいろなことを学び続けていくのだろうと容易に想像できる。ここ数年はお会いできていないが、ぜひご退職後も交流を持っていただき、いろいろな話をさせていただきたい。